

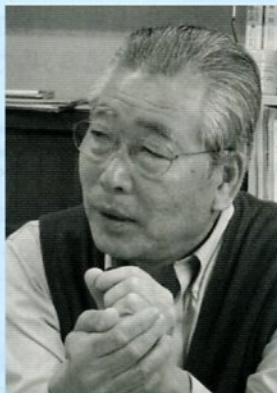
株式会社 上倉工務店

<http://www.e-kamikura.com>

代表取締役

磯部 雅恒

Isobe
Masatsune



昭和47年の会社設立以来、日本の伝統的な在来工法に一貫して携わり、今日まで着実に社業を発展させてきた磯部社長。

“みんなが幸せになれる家づくりをバックアップする”という株式会社上倉工務店の家づくりの思想を守り続け、「アフターフォローに力を入れ、お客様と二代、三代にわたるお付き合いのできる街の工務店であり続けたい」という磯部社長の強い思いが感じられた取材でした。

お客様の立場に立った家づくり

私どもの注文住宅は十分に建主様との打ち合わせを行い、シミュレーションを行って設計を行うなど建主様のご要望を最大限に取り入れながら、住まいづくりのプロの視点から快適でご家族全員が幸せになれるように設計時に適切なアドバイスを行っております。

また、気候風土と木の性質を熟知した職人が、良質の部材を確かな技術で組み立てることで50年、60年と住むことのできる快適な住まいを提供しております。

伝統的建築法・木造軸組み工法

日本の伝統的木造軸組み工法を在来工法と呼び、私どもはその在来工法で注文住宅を承っております。

軸組み工法の特長は主要構造壁を除き、間仕切りの変更が容易に行えますので、住む人のニーズに合わせたリフォーム、改築ができる点が挙げられます。

伝統的な軸組み工法の構造体として重要な「木」は他の素材にはない優れた特長を持っており、法隆寺に代表される様々な建築物が約二世紀を経ても今なお、その姿をとどめているのは木の特質を十分に生かす技術があったからです。

このような技術、伝統に培われた軸組み工法は有史以来何千年にわたり、日本の風土に合わせ改良され、一つ

の工法を確立してきました。

リフォーム事業とバリアフリー

昨今のリフォームブームもあり、私どもでは売り上げ全体に占めるリフォームの割合が徐々に増加しております。

そもそも、リフォームは家が老朽化したために修理も兼ねて行う場合と家族構成の変化などにより家の使い勝手が悪くなった場合に行うことが多いのですが、最近ではご自宅を高齢者あるいは障害のある方でも安全で快適に暮らすことを目的としたバリアフリー化された住宅にリフォームされるお客様が増えています。

しかし、バリアフリー化に伴うリフォームはただ単に行えば良いというものではありません。見せ掛けだけのバリアフリー化工事を行うと日常生活の習慣が変わってしまい、逆に事故を誘発してしまうこともあるようです。

そういった本末転倒な状態にならないために、私どもはご自宅をバリアフリー化する時には利用する側と支援する側の双方からの実際の声を十分に聞き、本人とその家族が地域の中でどのような暮らしを望んでいるかを十分打ち合わせ、理解した上で提案していくことが大切だと考えています。

在来工法へのこだわりと技術の継承

現在、私どもは在来工法による注文住宅の建築にこだわり、効率優先で収益が安定するハウスメーカーや建売住宅の仕事は一切行っておりません。

ハウスメーカーや建売住宅の仕事が主流になると職人の高度な建築技術が必ずしも必要でなくなるため、職人が組立工のようになってしまい、伝統的な在来工法の技術の継承がおろそかになる可能性があります。

その結果、将来的に真の技術者が不足し、本格的な木造注文住宅を建てられなくなってしまうことが予想されるため、私どもは在来工法による注文住宅の建築にこだわり続けております。

また、建築業界には若い職人が育ちにくいという問題もあります。一般的に職人として一人前になるには昔は10年かかりました。現在は機械の進歩などによりだいぶ期間は短くなりましたが、それでも5年のはかかるため、一人前になる前に辞めてしまう人が多く、高度な技術の継承は難しくなってきました。

このように伝統的な在来工法の技術を継承することは容易なことではありませんが、今後も伝統の中にも時代感覚や先進技術を盛り込み、現代にも十分通用する付加価値の高い木造住宅を作り上げてまいります。